

広報委員会市民交流部会では、毎年、一般公募をして「市民メンバー」を募り、弁護士との懇談会や裁判所、検察庁、刑務所等、司法関連施設の見学会を行い、弁護士と市民との交流を通じて広報活動を実践しています。その活動の一環として、平成23年11月17日に最高裁判所見学会を実施しました。

最高裁判所見学会に参加して

広報委員会委員 今井 智一 (63期)

最高裁判所庁舎の見学

市民メンバーのみでなく広報委員会委員の間でも、最高裁判所見学会への関心は高く、22名の市民メンバーと6名の広報委員、吉野高副会長の総勢29名が参加しました。当日は秘書官の方から最高裁判所の概要について説明を受けた後、大ホール、大法廷、図書館、小法廷へと足を運びました。

最高裁判所庁舎は建築家・岡田新一氏の設計（警視庁本部庁舎、宮崎県立美術館、東京藝術大学奏楽堂なども設計）によるもので、最高裁判所にふさわしい「品位と重厚」をテーマに作られたといえます。庁舎全体に静謐かつ重厚な空気が満ちていたのは、設計がそうした空気を生み出したためといっても過言ではないでしょう。特に、大ホールと大法廷は天井高を高くっており、「品位と重厚」という言葉が当てはまる空間でした。市民メンバーからも、空間に圧倒されたかのような溜息と驚きの声が上がっていました。

岡部喜代子判事と懇談

庁舎見学の後には小法廷に入り、当会ご出身の岡部喜代子判事から30分ほどお話を伺うことができました。当日は、予め市民メンバーにお聞きした内容をもとに、司会の吉野副会長が岡部判事に質問をするという形を取りました。

静かな語り口で、一つ一つの質問に対して丁寧にお答えくださった岡部判事の姿は非常に印象的だったのですが、とりわけ印象に残ったのは、「週末は何をしてストレス解消をしているのですか」という問いに対して、「平日も週末も、起きている間はずっと事件のことを考え続けています。そのように考え続けるのが私という人間ですし、考え続けることこそ私にとっての楽しみなので、特にストレスは溜まりません。」と答えられたやり取りでした。物静かで上品なお人柄の岡部判事は、このやり取り中も静かにお話をされていたのですが、その静かな語り口の背後にある情熱には私自身大変刺激を受けましたし、その場にいた全員が刺激を受けたのではないのでしょうか。

* * *

最高裁判所見学会は大変充実した内容となったため、市民メンバーからも数多くの反響が寄せられました。このような貴重な見学会の実現にご協力いただいた岡部判事、最高裁判所事務局の皆様、この場を借りてあらためてお礼を申し上げます。

広報委員会市民交流部会では、月に一度程度のペースで活動を行っています。市民との交流を通じて司法に対する生の声を聴く大変貴重な場といえるのではないのでしょうか。一人でも多くの会員が市民交流部会の活動にご参加いただければと考えております。



岡部喜代子最高裁判事(最後列左から5人目)と市民メンバーのみなさん